

弘済会の貸与奨学金は無利息

令和2年4月1日受付開始（4月30日締切）

貸与金額 修業期間1年につき25万円（最高100万円）

貸与奨学金の口座振り込み 令和2年8月～9月（予定）

下記は、平成31年度の募集要項に基づいています（今後変更が生じる可能性あり）。
令和2年度版については、「弘済会そくほう」1月号以降で紹介の予定です。

資格 連帯保証人（保護者等）が岐阜県内在住又は在勤で、学校教育法に準拠する短大・大学・大学院・高等専門学校（4・5年生）・専修学校専門課程に令和2年度入学又は在学の学生（4月1日時点で30歳未満・未婚）

貸与金額 修業期間1年につき25万円（最高100万円）

貸与方法 無利息で一括貸与

返還方法 貸与生の正規の卒業年の12月を返還の初回とし、
毎年12月に5年以内・均等年賦で返還
貸与額100万円に限り7年以内の返還可・滞納の場合には延滞金が発生

募集期間 令和2年4月1日～4月30日（必着）

○ 8月上旬～9月上旬に「奨学生名義の口座」に振り込み



弘済会そくほう

令和元年12月号

発行
公益財団法人
日本教育公務員
弘済会 岐阜支部
Tel. 058-272-9513

提携保険会社
ジブラルタ生命保険
株式会社
営業所電話番号

岐阜第1・2営業所
058-267-6006
大垣営業所
0584-83-4500
関営業所
0575-22-3793
美濃加茂営業所
0574-25-3658
多治見営業所
0572-21-3732
中津川営業所
0573-65-3517
高山営業所
0577-32-1623

新企画 「読者の広場」 投稿募集集中

令和2年1月スタートの新企画「読者の広場」

「弘済会そくほう」を読まれた皆様からの
感想・「意見等を募集

「弘済会そくほう」を読んでくださる皆様（会員・非会員を問いません）から「感想やご意見」を募集します。寄せられた感想等の一部は、令和2年1月号からの新企画「読者の広場」で紹介します。

■ 応募方法

弘済会HP（トップページ下段）の「読者の広場」をクリックし必要事項を入力し送信してください。

■ 粗品の贈呈

送信された方の中から毎月抽選

■ Tプライブ補助

今年度20・30・40・50歳・還暦・古希・喜寿・傘寿になられる教弘会員の皆様に図書カード（2千円）をお届けしました（同封の「受領書」をFAXにて送信してください）

■ 継続会員記念品

教弘会員を5・10・15・20・25年継続されている方にギフトカードをお届けしました（受領書の返信は不要です）



弘済会の猫の独り言(36)

教員には専門教科の知識や技能が不可欠なのは言うまでもないが、それ以外にも「雑学」が必要だと思う。子ども達の興味・関心というのは際限がない。自分自身は何の知識もなければ、子ども達からの「先生、あのね…」という問いかけにも十分反応できず、興味の芽を摘んでしまうこともあると思うからだ。そんなこともあって若い頃から新聞だけでなく様々なジャンルの本を読むよう心掛け、気になった記事は整理・保存するようにしてきた。その中から「内外教育（平成25年4月2日号）」に掲載された記事を紹介する。

子どもの感性と教師の間合い

中杉隆夫氏（姫路市教育長・当時）

先日TV番組で、先の見通しが付かないことを表す四字熟語はと聞かれ、「国民年金」と答えるのを聞いた。正解は「五里霧中」だが、なるほどと感心する一方これが学校の授業中や答案の採点であれば、先生方はどう対応されるのだろうかといささか気になった▼私にもこんな経験がある。小学校の国語の授業のこと。先生が「春の小川は〇行くよ」と板書され、空欄に入る言葉を尋ねられた。褒められたい一心でみんな必死に頭をひねる。先生は一向にウンとうなずかない。順番が来て、私は自分の家の傍らを流れる川を思い浮かべ、「ぎんぎら」と答えた。一瞬の



沈黙の後、先生は急に不機嫌になられ、「さらさらに決まっているでしょ」と吐き捨てるような口調で仰った。その時、取り返しが付かない何か悪いことをしたような暗澹たる気持ちになった▼その後、国語教師としての道を歩むようになったが、子どもの純粋な感性と伝えるべき知識の狭間で、教えることの難しさに何度も立ち止まった。その疑問がいささかなりとも解けたのは、その頃ある新聞に掲載された記事だった。（裏面に続く）

教弘保険に無料付加 リビング・ニーズ特約とは？

ジブラルタ生命保険(株)が属する米国プルデンシャルが創設

■ リビング・ニーズ特約が生まれた経緯

1989年当時、米国プルデンシャル元社長のロナルド・バーバロは、仕事のかたわらボランティア活動にも多くの時間を割いていました。

ある日、彼はエイズ患者が入院するホスピスを訪問し、死を目前にした人々の姿を見て、「何かできることはありませんか？」と尋ね歩きました。すると、ある患者が「私は尊厳のある死を迎えたい」と答えたのです。

実はその患者は医療費など多額の借金を抱えていました。生命保険に加入していましたが、亡くなるまでは保険金は受け取れません。バーバロは保険業に携わるものとして何かできないだろうか考えた末に、いずれ支払われる保険金であれば、生きている間に前払いできない

だろうか考えたのです。

そして、彼は社内や行政当局を説得して、「リビング・ニーズ特約」を実現させました。保険金を受け取った患者は借金を清算し、クリスマスには故郷に帰り、プレゼントも買い、家族と一緒に過ごすことができました。

そして、最期まで自分で身の回りの世話をできるように洗濯機を買い、余った保険金を教会に寄付したそうです。その患者は息を引き取る直前に「ありがとう。私は今とても安らかな気持ちです」とバーバロに言ったそうです。

(プルデンシャルグループHPから引用)



昨年度は303名の参加者

いつの間にか消えてしまった「2千万円問題」。しかし、実際にはもっと多くの老後資金が必要だと言われています。退職後の生活設計は避けて通れない重要な問題です。早めの情報収集は必要不可欠です。そのためのきっかけとしていただけるのが「退職予定者セミナー」です。

2019年度退職予定者セミナーの予定(12月以降実施分)

地区名	開催日・開始時刻	会場
岐阜	1月25日(土)10時	岐阜大学サテライトキャンパス(岐阜スカイウイング37東棟4階)
西濃	西濃地区でのセミナーは終了(参加ご希望の方は他地区で参加願います)	
美濃	1月18日(土)10時	アピセ間
可茂	1月25日(土)14時	美濃加茂市生涯学習センター
多治見	12月14日(土)10時	パロー文化ホール
中津川	12月22日(日)10時	東美濃ふれあいセンター
飛騨	12月7日(土)10時・14時	午前:高山市文化会館 午後:下呂聖堂会館



定年退職前に某市教育長に就任された方から「急な退職となったため退職後の生活設計について考える機会がなかった。今からでもこのセミナーに参加できますか」との申し出をいただきました。ジブラルタ生命保険(株)と弘済会岐阜支部が共催する「退職予定者セミナー」は、数年後に退職を控えておられる方も含めどなたにも参加していただけます。

「退職予定者セミナー」好評開催中

■ 「リビング・ニーズ特約」とは

被保険者が余命6ヶ月以内と判断されたとき、生存中に被保険者が死亡保険金などの一部を前払で受け取れる特約です。死亡保険金などは本来保険金受取人に支払われますが、リビング・ニーズ特約を付加することにより、被保険者自身が死亡保険金などの一部をリビング・ニーズ保険金として利用できるようになります。医療費の補助や余命期間を充実させるための資金などにご活用いただけます。

「ツイン料金」等の詳しい案内は12月の教職員事務センター発送文書に同封されています(各校1枚)。

例年、多くの教弘会員様から予約がある「朝食無料キャンペーン」を、今年も開催されるとの情報提供がホテルリソル岐阜からありました。

今年もやります！
朝食バイキング無料キャンペーン

ホテルリソル岐阜 教弘会員様向けお得情報

期間 2019年12月16日～2020年3月18日
<シングル朝食付き料金>

通常料金	13,300円
日・月	3,800円
火～金	4,200円
土休前日	5,500円



弘済会宿泊補助券利用時

理科のテストで「水がとけると何になるか」との問いに、多くの児童が「水」と書き、一人だけが「春」と書いた。記事を読んだ人から多くの投書が寄せられ、「春」と書いた子どもの発想が絶賛され、教育の形骸化を批判した雑誌や論評が紙面を賑わせた。だが、よくよく考えてみると不思議な話だ。国語であれば「水がとけて春になる」という発想は貴重であり、水という常識的な解答よりむしろ高く評価されることがあってもよいが、理科という論理に重きを置く科目では正解とは言いがたい。教科のねらいをどう教えるかだ。▼子どもたちの思いを受け止めつつも、基本となる知識をしっかり学ばせたい。そのためにも、教師にとって一呼吸置いて考えるゆとりと確かなる教育観が不可欠だ。

11月初旬、あるワイドショーで小2の女兒が算数のテストで答えた解答のことが取り上げられるのを見た。テストの問題はこうだ。

ゆきこさんの家からえきまで30分かかります。8時50分にえきにつくには、家を何時何分に出るとよいですか？
りゅうもかんがえましよう

これに対して女兒の解答は、「家を8時15分に出るとよい。8時20分だとぎりぎりであるとおぼないから」。残念ながら算数の答えとしては×だったが、娘から「どうして×なのか」と尋ねられた父親の神対応がネット上でも話題になったそうだ。先生に対する父親のコメントにも考えさせられた。

教員は、様々な形で子どもたちに影響を与える。たった一言が子どもをやる気を伸ばすことも阻害することもある。かつて仕えた校長先生から「褒める言葉も叱る言葉も真の『愛語』であれ」と教えられた。「なんや、そんなこともできないのか」といった、心ない一言を当時の教員にかけたのはごんたつただろうかと思えば返す言葉がある。

